

きれい 甲斐

No.50 MARCH 2010

環境パートナーシップやまなしは、県民・事業者・行政のパートナーシップ（協働）のもと、団体間の連携や情報交換の場づくりなどを通じて、自主的な環境保全活動を積極的に展開していくことを目的として様々な活動を行っています。環境保全に関する活動を積極的に行っている団体、個人のみなさまのご入会をお待ちしています。

環境パートナーシップやまなし

事務局 ● 〒400-8501 山梨県甲府市丸の内1丁目6-1 山梨県環境創造課内
TEL.055-223-1503 FAX.055-223-1507 ✉ kankyo-sozo@pref.yamanashi.lg.jp
URL <http://www.pref.yamanashi.jp/kankyo-sozo/60200266375.html>



古紙配合率100%再生紙を使用しています

発行責任者 ● 広報専門部会長 神宮寺 聡

やまなし環境活動推進 ネットワークフォーラムを開催しました

環境パートナーシップやまなしでは、1月23日に「やまなし環境活動推進ネットワークフォーラム」を(財)やまなし環境財団との共催で開催しました。

当日は約120名もの方々に参加していただき、午後1時から4時すぎまで環境保全に向けた取り組みについて活発な情報交換がなされました。

フォーラムの前半では、環境保全に向けた活動を実践している4団体が、活動内容を発表しました。

最初に、NPO法人おおつきエコビレッジから、30年余り放置された山林や農地の再生を目的とした地元の学生などの参加による取り組みとして、大月市富浜町鳥沢地区で実施している山林の間伐と間伐材を利用した椎茸のほだ木造り、古代米やさつまいもなどの農業実習、収穫体験について発表しました。

続いて、流美会からは、甲府市堀之内町で20年前から取り組んでいる流川の河川敷への花壇づくりについて発表しました。取り組みを始めた20年前には小さな花壇でしたが、現在では約150坪もの花壇になり、地域住民の憩いの場となっているそうです。



←宮川会長からのあいさつ

おおつきエコ
↓ビレッジの発表



↑流美会の発表



←(株)やまとの発表

続いて、(株)やまと(食品スーパーやまと)からは、スーパーから出たごみはスーパー自身が処理するべきとの考えで実践している、生ゴミの回収・堆肥化及び堆肥を利用した野菜の生産から販売までの循環型モデルの形成、レジ袋の無料配布の中止、ペットボトル回収による収益金の地域への寄附、エコキャップ運動による発展途上国へのワクチン寄贈などの地域住民を巻き込んだ取り組みについて、ユーモアを交えながら発表しました。

最後に山梨県森林環境部環境創造課では、平成20年度から開始したレジ袋無料配布の中止について発表しました。現在、レジ袋の無料配布の中止に参加してくれる事業者の拡大が課題となっており、ホームセンターやドラッグストアをはじめ、個人店舗にも参加していただきたいとのことでした。

フォーラムの後半では、「地域ぐるみで実践している環境保全に関する取り組み」と「パートナーシップによる3R運動の取り組み」の2つのテーマに分かれて、全員参加型のワークショップを行いました。参加者からは、様々な環境に対する取り組みが出されるとともに、利便性を追求する生活スタイルを見直し、多少は不便であっても環境に配慮した生活をしていく必要があるなど、活発な意見交換がされました。

環境活動推進ネットワークフォーラムを開催しました

また、フォーラムに参加していただいた方には、環境パートナーシップやまなしからの記念品としてドギーバッグをプレゼントいたしました。

参加していただいた方にアンケートを実施した結果、9割以上の方から役に立ったとの回答をいただきました。アンケートで回答をいただきました主な感想を紹介いたします。



ワークショップの様子

- ・それぞれの地域で、色々な取り組みがされていることがあり、これからの自分たちの進むことも考えさせられた。
- ・みなさんが地道に努力なさっているのに感心しました。何事もスタートと続けることの大切さを知りました。
- ・地球温暖化防止は、一人一人が出来ることから取り組むことが大事だと痛切に思う。
- ・今日のフォーラムに参加して、皆それぞれの立場で一生懸命取り組んでいるのが見られ、自分も地域で少しでも活動をしていくように心がけたい。
- ・今後、自治会活動をとおして、多くの方にPRしていきたいと考えています。
- ・各自が意識を持つ、地域ぐるみで活動をおこすことが大事ということを改めて感じました。
- ・宮川会長のお話にありましたように、質素な生活が普通になるように心掛けたいと思います。
- ・自分だけでなく、子供や孫にも呼びかけるよう努めたいと思います。
- ・各団体の活動発表をお聞きして、とても感動しました。「継続は力なり」を再認識しました。
- ・今後も身近な活動団体や個人の情報を得る機会を作っていただきたいと思います。

「ごみ持ち帰りキャンペーン」 を実施しました。



■記念写真



■パレードの様子

昨年11月14日、15日に小瀬スポーツ公園で開催された県民の日記念行事において、「ごみ持ち帰りキャンペーン」を実施しました。両日あわせて延べ約60名もの会員が参加し、手作りのプラカードを持ったり、仮装するなど、工夫を凝らしながら会場内をパレードしました。

また、「山梨県を盛り上げたい!」を合い言葉に活動をしている「アトラクションチーム甲斐座」による正義の味方「サクライザー」に飛び入りで参加していただき、会場内の方々に向けて、ごみの持ち帰りを呼びかけてくれました。

ケナフ栽培と紙すき

東山梨地域
環境パートナーシップ会議

ケナフはアオイ科フヨウ属の一年草です。「ケナフ」という言葉はペルシア語のK a n a bが語源といわれ「麻」の意味を持っています。原産地はアフリカとされており、広く東南アジア、中国、カリブ海沿岸、米国南部などで栽培されています。日本でも北海道から沖縄まで全国的に栽培可能な、まれにみる早生植物です。

ケナフは二酸化炭素を多く吸収し、またチッ素やリンを吸収することから、水質浄化作用もあり、地球環境保護に役立つ植物ともいわれています。

東山梨地域環境パートナーシップ会議では10数年前から甲州市大和地域の休耕田をお借りしてケナフ栽培をしています。種蒔き、水やり、草取り、肥料かけ、土よせ、刈り取りなど会員が汗をふきながら作業を頑張っています。昼食には手作りのお弁当を広げていろいろな話題に花が咲き、疲れも忘れて活力を養っています。

ケナフを収穫し、皮をむいてパルプにしたり、細かく裂いて布を編んだり、皮をむいたケナフを炭焼きし、脱臭剤として活用しています。今年度は1月10日に、市川三郷町市川大門の丸富さんに於いて「紙すき」を行いました。ハガキ、名刺、賞状用紙など思い思いの物をつくり、楽しい一時を過ごし、製品として出来上がった物を手にして喜びでいっぱいでした。ケナフ栽培は、決して楽ではありませんが、環境保全に役立つという目的を持って継続しています。



ケナフの花



紙すきの様子

「12年余りの活動を振り返って」

生ごみリサイクルを推進する会（富士見町ボカシの会）代表 保坂 貴子

富士見町ボカシの会（南アルプス市小笠原）が結成されたのは、平成9年の夏でした。ごみの不法投棄や大気汚染がメディアを通して毎日のように報じられ、ふりかかってくる環境問題が主婦たちの心を暗くし始めていた頃でした。

その日、集会所に集まった三十数名の女性達は、全員が地元に住む主婦で、環境を守るために、自分たちにもすぐにできる活動について話し合いました。その中から土壌改良材として使われていたEM菌を活用すれば、生ごみを腐敗させずに発酵させ、有効な堆肥として土に返すことができることが分かってきました。

当時どこの家庭でも生ごみは一般廃棄物として焼却場で処理していただくことが普通でしたが、主婦の手で、家庭内でできる堆肥化処分の方法は、焼却の際に使用される重油を節約し、焼却処分によって発生する大気汚染物質を抑制できることなどから、一人一人が家庭で取り組むこの活動を「生ごみリサイクル活動」として、地域に広げていくことを会の活動目的といたしました。



県民の日での出展とボカシ作りの様子

それから13年経ち、発足の時、若く、意気盛んだった女性達は、それぞれに年を重ねていますが、衰えを感じさせません。それは、13年もの長い間、一人の脱会者もなく、毎月の定例会では全員で力を合わせ、ボカシを手作りし、各地のイベント会場に出掛けては声を張り上げて活動への参加を呼びかけ続けた環境保全に対する熱い思いが、今も変わることがないからだと思っております。

持続可能な社会に向けて

やまなし環境会議

私たちの会は、温室効果ガスなどによる地球温暖化等の自然環境の破壊に対して、人間個々がどのように考え、どのように行動していくことが、本来の持続可能な地球環境を取り戻し、平和な人間社会を建設していくことが出来るのだろうか、そのような観点から活動を続けております。

エコバッグの作成・地球環境改善の心得、等々の作成など、種々の活動を行なっていますが、活動の主なもの、環境問題に対する勉強会と、会員個々の取り組みであります。ここで紹介するのは、甲府市国母地区子どもクラブ指導者連絡協議会に協賛し、企画・立案から参加した放流会の事業です。

この事業は、①生態系の回復、②生命の尊重という二つの観点から、山梨淡水生物研究会の先生方にもご指導とご協力をいただいて共同実施いたしました。三年間継続して行われ、めだか、はやなどの魚が、荒川の放流場所付近で着実に増えていることが観察、確認されています。

当会は、日本環境会議会員が中心となっており、環境問題を正しく学ぶとともに、各自の実情にあった実践活動を心がけています。地球環境改善のために、共に学び活動していく会員を募集しています。



設立総会(平成20年4月)並びに講演会の様子



放流会のパンフレット

問い合わせ先：やまなし環境会議事務局 甲府市国母8丁目1-14
TEL 055-224-2328 FAX 055-224-2348

会員リレートーフ Vol.11

地域の環境美化運動への取り組み

甲府市老人クラブ連合会 平山 俊夫

老人クラブでは、「健康、友愛、奉仕」の三大運動に加えて、地域における子どもの安全の見守り、伝承文化の世代への交流、環境美化、リサイクル運動など幅広い活動を行なっています。

このうち、近年は、環境美化活動が盛んで、特に社会奉仕活動や花いっぱい運動などの諸行事が行なわれています。昨年は、これらの運動の成果として、全国老人クラブ連合会から「活動賞」を受賞するほどであり、この運動の輪が大きく広がることが期待されています。

また、これらの運動を通しての仲間づくりと安全、安心の明るい町づくり運動も関係団体の協力により広く行なわれているほか、花づくり運動についても地域の小学校児童との交流事業の一環として実施したり、道路沿いに花をいっぱい置くなど、各老人クラブの創意工夫と会員の積極的な協力により環境美化運動に貢献しているところであります。

このように、老人クラブでは、創造と連帯の輪を大きく広げ、迫り来る超高齢化社会に向け、高齢者相互の心と心の結び合いを基本とし、地域社会に貢献してゆくことを理念とした活動を継続して参りたいと存じます。



花壇づくり作業の様子



清掃作業の様子

●投稿募集中

【会員紹介コーナー】

①スペースはA5判程度で、原稿と写真等を入れて構成してください。②団体等の名称、所在地(事務局または事務所等)、連絡先を必ずお書きください。③内容は、活動紹介やPRなど自由です。④締め切りは特にありません。

【行事予定】

○団体名、日時、場所、内容、申込み方法、連絡先等です。